

# 水稻育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JAみついし

澤井 久志



慣行区の様子 4.26



慣行区の様子 4.26



試験区の様子 4.26



試験区の様子 4.26



ハウス全体の様子 4.26



ハウス全体の様子 4.26

## 試験目的

薄型こめパワーマットの実用性確認

## 試験作物 及び品種

水稻(ゆめぴりか)

## 試験資材 及び数量(規格)

薄型こめパワーマット 90枚

## 慣行資材

こめパワーマット(16mm厚)

## 栽培方法

播種日	定植日
慣行区:4月15日 試験区:4月15日~20日	慣行区:5月17日 試験区:5月17日~18日

## 資材使用期間

4月15日~

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

播種時に覆土の量を調整しなければいけなかったが、問題はなかった。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

芽出しについては問題なかった。生育差もほぼなかった。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

**【優位点】**：薄くなる分、使用枚数が同じでも、保管スペースが小さく済む。コスト低減になる。

**【問題点】**：播種時の覆土の量の調整や、育苗管理に若干注意が必要となる。

## モニター感想

播種の際、16mmのこめパワーマットについては、覆土を苗箱すり切り程度にしているが、試験品は少し覆土をすり切りより少なくするように調整したため、芽出しは問題なかった。

試験品は薄い分、若干保水力が落ちているためか、慣行品と同じようにかん水すると水が少々上に浮いてきたように見受けられた。そのためハウス内に苗箱を運ぶ際、複数枚を重ねるのだが、苗箱の底部に土が少し付着してしまった。

その後の管理や生育については問題なかったと思う。

薄型への切り替えについては、より管理に慣れることができるよう、もう少し試験期間があると良かった。

## JA担当者の感想(みついし 購買部 元道部長)

こめパワーマットを薄型化することで、保管スペースやコスト低減につながることは良い。

育苗期間中の大まかな流れは慣行品とほぼ変わらないが、細かな使用感・管理が異なる面があるため、薄型の特徴に慣れるためには、多少時間を要するよう感じた。

こめパワーマットは、生産者の省力化へとつながり、マニュアルも整備されているため、数年前に比べると推進しやすくなっている。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

1 経営理念

2 数値目標

3 製法プロセス

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 除菌資材

9 ICT機器

10 その他